

会 議 録

承認			事務局						
委員長	阪森委員	別所委員	まちづくり 推進部長	都市計画 課長	担 当 主 幹	担当長	担当長	担当員	
6/12	6/16	6/23							
《開催日時・場所》			平成 26 年 6 月 6 日（金曜日）14：00～16：10 岸和田市立中央地区公民館 3階講座室 4						
《名 称》 第 11 回岸和田市公共交通検討委員会									
《出席者》（委員会委員出欠状況）									
日野	伊勢	寺田	西野	野村	阪森	依岡	多和	別所	馬場
○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
（委員 10 名中、9 名出席）									
事務局：森口まちづくり推進部長、都市計画課：大井課長、岸田担当長、森 南海ウイングバス南部株式会社：岡本									
《傍聴者》 0名									
《概 要》									
■議事									
1. 再試験運行バスの利用実績について									
2. 沿線住民アンケート集計結果について									
4. 再試験運行バスの事業評価について									
5. 公共交通のあり方について									
■その他									
1. 次回委員会の開催予定について									
《内 容》									
■岸和田市審議会等の会議及び会議録の公開に関する条例等について									
（委員長）第 11 回岸和田市公共交通検討委員会の会議録承認者として阪森委員と別所委員の 2 名を指名。									
■議事									
1. 再試験運行バスの利用実績について									
再試験運行利用実績について、事務局より説明。									
【質疑の概要】									
（委 員）：前回の試験運行と比較して総利用者数は変わらないのか。									
（事務局）：運行期間が違うため 1 日当たりの利用者数で見ると、44.0 人／日から 49.9 人／日に増えている。1 日 6 便から 7 便に増便したためだと思われる。また、1 便当たりの利用者数は、7.3 人／便から 7.1 人／便に減少している。									
（委 員）：リピーターが多いのか。									
（事務局）：平成 25 年 8 月に実施した調査では「初めて乗った」という方が少なく、リピーターが多かったと思われる。									
（委 員）：可能な限り車に乗り続ける人が多く、運転できるときは外出するが、運転ができなくなると外出をしなくなるので、老人が増えてもバスに乗る人が増えるか疑問に思う。ローズバスは安くて病院まで連れて行ってくれるが、時間がかかるのでタクシーを利用されている方もいる。									

(委員長) : 「市民病院前」「東ヶ丘町周辺」「久米田駅前」において、1日当たりの利用者数は増えているが、1便当たりになると減っているのではないか。

(事務局) : 「東ヶ丘町周辺」と「久米田駅前」は、1便当たりでも増えている。

(委員長) : 路線バスへの影響はあったのか。

(事務局) : 昨年6月と11月に南海ウイングバス南部(株)で実施した乗降調査では、福田線と牛滝線で路線全体の乗降人数は増えているが、重複区間のバス停では減少している。東ヶ丘線は路線全体で3%の減少に対し東ヶ丘町5ヶ所のバス停の合計で10%減少しているなど、路線バスへの影響が出ている可能性が高い。

2. 沿線住民アンケート集計結果について

沿線住民アンケート集計結果について、事務局より説明。

【質疑の概要】

(委員) : バス利用拡大のための条件として「行きたい場所への運行」が今回も高くなっている。主要なところへは運行していると思われるが、どこへ行きたいというアンケートは行っていないのか。

(事務局) : アンケートの個別意見では、南海岸和田駅、泉北高速和泉中央駅、市役所などを希望されている。ルート上に乗換えをすれば岸和田駅などに行けると表示したが、乗継に抵抗があると思われる。

(委員) : 行きたいところへ再試験運行の路線を伸ばしても路線バスの利用者が減るだけになる可能性がある。

(事務局) : 運賃が100円のままだと、その可能性が高い。

(委員長) : 目的地まで行くために乗継が必要だと不便であり、割高になる。例えば、バスから電車に乗り継いだ場合に対距離運賃にするなど割引をしないと良いところがない。事業者にも検討してもらいたい。

(委員) : 前は下松駅で待機していたバスは、どこで待機していたのか。

(事務局) : 岸和田駅まで行っていた。

(委員) : その時だけでも岸和田駅まで乗せることはできなかったのか。

(事務局) : 再試験運行前に検討したが、同一区間で路線バスに対して運賃が割安で路線バスへの影響が大きいという懸念があり実現できなかった。

(委員長) : 路線バスやコミュニティバスでも鉄道でも同一区間では同一料金にしなければならない。利用者からすれば、なぜ違うのかと思うし、安い手段を選ぶのが当然である。だからといって運行しないのは利用者のことを考えていない。

(委員) : 将来的に路線バスではなくコミュニティバスで市内を網羅するという事は考えていないのか。

(事務局) : 収支面から多額の税金を投入することとなり、考えていない。

(委員) : 税金だけのことを考えると難しいと思うが、全域に運行しないと高齢者等から移動手段がないといわれる。市民の足を確保するためには、収支率が悪いからといってやめるのではなく続けていかないといけない。続けるならば、利便性を考えなければならないのではないか。

(委員長) : 回収率や認知率が前回よりも低い結果になっているのは、認可を取って運行しているため、再試験運行までに休止期間ができたので、利用者には再試験運行とは受け取られていないことも影響していると思われる。今の試験運行の方法では限界だと思われるので、運行しながら臨機応変に対応できるような試験運行の仕組みを検討しなければならない。

収支率が1割にも満たない状況では、他の地域との問題もあり運行は認められないので他

の方法を考えなければならない。運行するためには、最低でも地域が頑張ることが必要であり、頑張れば収支率が1割ということにならないはずである。

3. 再試験運行バスの事業評価について

再試験運行バスの事業評価について、事務局より説明。

【質疑の概要】

- (委員)：地元との協議においては、ローズバスに限らずバス全体について協議すべきである。また、「なぜ乗らないのか」「どこに行きたいのか」を聞いて資料を作成していただきたかった。
- (委員長)：協働の取組度合いについて、沿線の全町会が3回以上というのは厳しいと思う。通常コミュニティバスの対象地域は狭く集中的に取り組むことができるが、今回の地域はかなり広いので一律の指標でよいのか考えなければならない。
- (委員)：空白地域とその他の地域で同じ重みで評価することはいかなものかと思う。
- (委員長)：この結果は地域の利用者だけの問題ではないのではないか。運行したり運行しなかったりする運行形態がよくないのではないか。もう一度試験運行を実施するならば、予算要求と共に認可も受けなければならず1年近く先になるので、継続して試験運行しているとは思えないし、地元の方もいつ運行しているか分かりづらい。地域の方にも本気で頑張れば継続するし、そうでなければ続かないということを実感できるような取組にしなければならない。そのためには地域公共交通会議に移行し、運輸局にも参画してもらい連携計画を作成しなければならない。あり方の基本計画の中の一つに空白地域等での住民サービスとしてコミュニティバスの試験運行を実施しながら検討したいことを入れておけば、地域公共交通会議を立ち上げることも可能だと思う。
- 市民の移動のあり方の中の公共交通の役割について、委員の皆様から意見を伺いながら検討していきたい。今回の委員会で結論を出さないといけないのか。
- (事務局)：ご意見をいただいた上で引き続き検討していただきたい。
- (委員)：利用者が少ないのであれば、何人か集まって一緒にタクシーに乗るという方法もあるのではないか。
- (委員長)：デマンド交通は現状の需要では難しいが、利用者が増えれば乗合タクシーのサービスも選択肢の一つとして検討できる。

4. 公共交通のあり方について

公共交通のあり方について、事務局より説明。

【質疑の概要】

- (委員長)：委員から出ている意見を整理し、項目別に設問を作成した上で、改めてこれに対する各委員のご意見を聞いてから、岸和田市のあり方について、各委員の合意の下に次回の委員会で検討したい。また、検討方法や進め方についても付記したい。
- (委員)：人が集まる場所まで運行すれば、利用者が増えるのではないか。
- (事務局)：今回の試験運行のルート上に人が集まる施設が少なかったことが、利用者が増えなかった要因だと思われるので、そのようなことも意見としていただきたい。
- (委員)：どうしても必要と思っている地域に限定してサービスを提供していく方がよいと思う。
- (委員長)：この委員会で考えることは公共交通のあり方であり、行政が考えることは不便地域や移動困難者に公共交通あるいは個別サービスで支援するかを決める。地域のことも岸和田市全体の公共交通についてもご意見をいただき、基本的な考えを市へ提案したい。評価基準だけで判断すると、この地域に公共交通を運行させることは難しいので、あり方に照らしてこの地

域について見直していく方がよい。

■その他

1. 次回委員会の開催予定について

(事務局)：次回委員会は、委員長、副委員長と調整の上、決まり次第連絡します。

2. 委員会の公開について

今後も委員会を公開することで了承を得る。